繪入古今和歌集 上

へ4
4317
1

へ4
4317
1-2
門へ4
號4317
巻1
故横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いみ色のこゝろをとゝのへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第一

春哥上 六十八首

[illegible]

業平朝臣 [illegible]

在原元方

紀貫之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元

言
重

東宮ノ四位三アウロ五月二ハ十五日ノ

毛詩ニ谷風ハ東風ノ事ト云リ出典ニハ谷ニアリモイタクヌル風ヲ谷風ト云ヘリ氷ヲトル水ヲトル

題一首次

イニセ

春日野ハ雪ハ消ヤラ若草ノ

ヒ

ヤ

ヤ

ヤ

振り出し

春の日の光のどかなるに花の色香にめでて

寛和二年内裏歌合

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそみえねかやは隠るる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅のもとをすちてゝふるとてうけれ
ゝ
ゝ
ゝ

伊勢

貞之

寛平比時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

哀傷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちんにふて梅の花とよめば
いさ梅花をちらすうぐひすとはいはるるなり
わがやどの梅の花の人しれずあるをしるべくてきあるうぐひすとはいはるるなり
花しけりてはるの
はるかすみ
ものもいはぬうぐひすのこゑ
ひとはいとうとくうぐひすのよめば
春霞たちかくしたる梅むらをまつ人にとはばいかがこたへん
ものもいはぬうぐひすのこゑ
あるべきかぎりの梅の花ぞ
春たちぬとて後ふ藤原ゆきの朝臣
春たちぬしるしは梅とはいはねども
春の花のみちにいろはなくとも
春をまつ
春の花のみちにいろはなくとも
春をまつ
ゆきのうちの梅

[illegible]

平城天皇大同天子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第三

夏歌

三十四

ちる　　茨菰トカケトサヒトヨヤシム　　侯人

成やまの池の茨菰さきにけりいかなる人のいけるなるらん

紀ゆきつ

ふかくさの山ゆ出ていまこそはさきにほふらめ

紀ゆきつ

ほとゝぎすとりてもなくらん

よしの人

さつきまちはなたちばなの

伊勢物

六月にしなるとりもなく

侯人

さ月まつはなたちばなの

紀ゆきつ

いにしへのかをかしのはなの

紀ゆきつ

さ月まつ山ほとゝぎす

紀ゆきつ

ほとゝぎすいまこそなくらめ

紀ゆきつ

ほとゝぎすいまこそなくらめ

紀ゆきつ

ほとゝぎすいまこそなくらめ

[illegible]

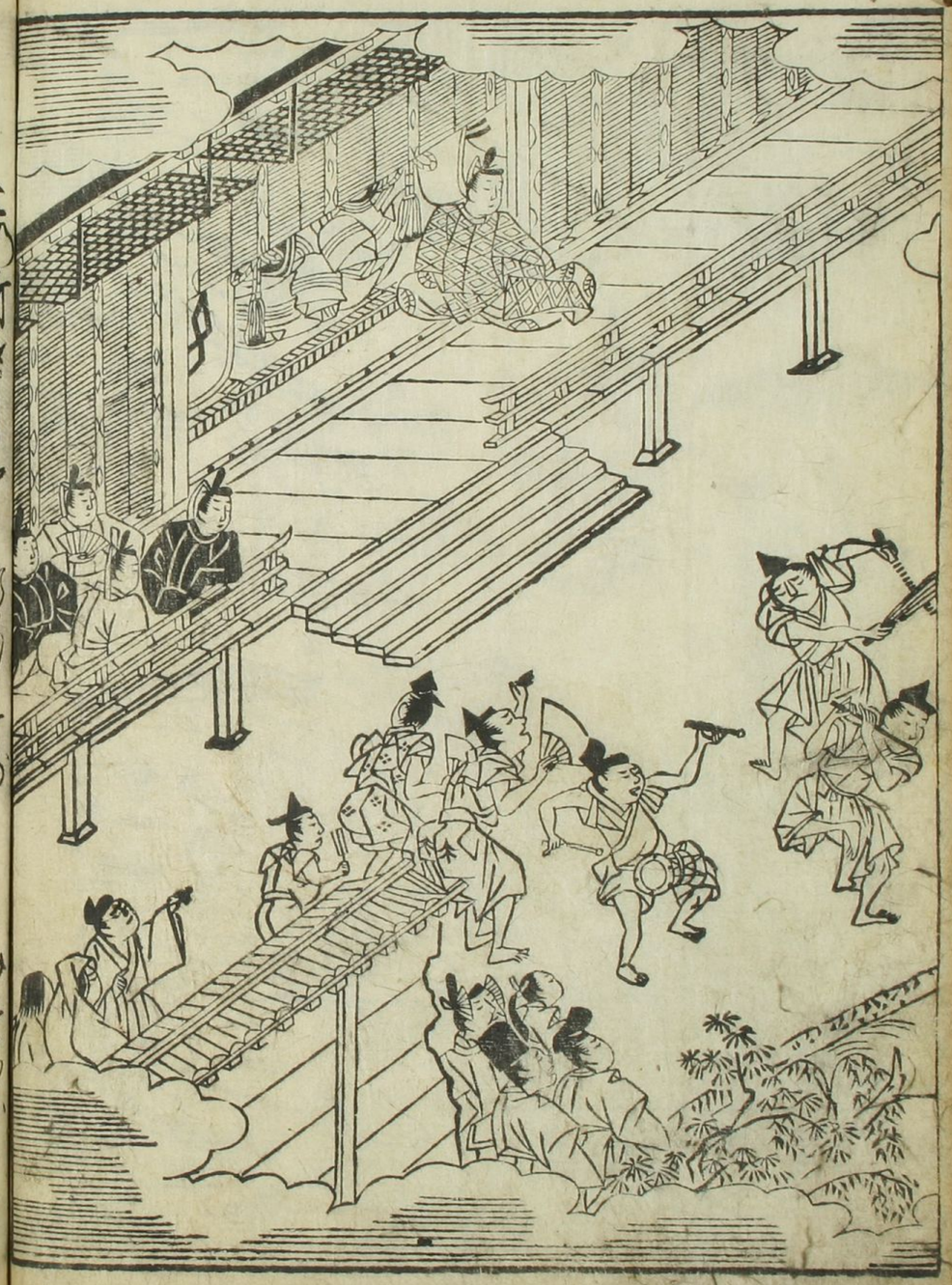
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



古今和歌集卷第四

夏歌上

秋立日よめる　藤原敏行朝臣

秋きぬとめにはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる

河風のすずしくもあるかうちよする
なみとともにや秋はたつらん

よんどしらず

つゆかこうあるとも秋はたつらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛永十四年四月十八日　藤原惟房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風の初尾の稲のさやぎをもあはれとおもふ草とおもへこそ草

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是貞の今はの家の方合歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はかへてこれうつしかへたる　平けさん

花はあらくなりぬるかんなかぬしはいかにとやをこれをこの歌の心を侍る　うしゆうの朋に

なふへきくねきもしらすはしらねとふからに

ねらるるものとよそへ人はしらねは　はらはむ

あらせしこの濃くこの花の衣をうつしかへてはつ

あはしらはとよそへたるなるへし

わすれて

思かとふかへ　れイ

そなへ

なしらは

今もちらすくるにしら花薄かな出はの秋を慎しかりけり

寛永清水法皇さいはいのうちにもとめ　平貞文

秋の野に草のうすきを花とみてをしかふむらくまなく袖とうるん

赤はしし

ワレノミアハレト思フヘキニアラス誰モサヲフこしラメトト

ワレのみや哀とおもはん蓬なるゆふの宿にこ

よもすがら

やとりのはなとの草とふまとはかりの花はあはれ

とも草はのもの細くあはれ

月まちの夜ちとしんはいろ露はいろ

にあはれみやもあはれ

とはけるの道の遍昭のこの家のやとの給へとの時よ

秋の野のはなとそおもふ法のはるくるとも

セナ　ヒ氏名人ハ　フリニヤドルラメノ

恐シテノ星ハアレ

ナトハアレデ

信正遍昭

ものや哀を離を秋の野にちる

古今和歌集巻第五

秋歌下　六十六

公任ノ日記ニ九月ノ下上三人テワツカニ一フシアルナリトイヘリ

是貞親王の家の歌合のうた　文屋やすひて

ひらの雄の草木にかきしをしかとあらしとあらん

あきの草木にかきしをしかとあらしとあらん

[illegible]

紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の月ふかきかすみのうちにてこゑはかすかにもれくる

九月廿九日

四あしくふかしらやれんとの月ゆかしきかすみのうちにてこゑはかすかにもれくる

よみ人しらず

ふるさとの秋の月をいかにかはかすみのうちにてこゑはかすかにもれくる

ほとゝぎすの卵二人トイヘ代
秋の末トキヨユ秋ノ字ニ
ハヤウニ詠スヘ
カラス

秋

ほとゝぎすなくこゑはつたへてもとりのこゑ

人の家にもるる月をみるばかりしらくもたに

よみ人

ほとゝぎす

ほとゝぎすなくこゑはつたへてもとりのこゑ

よみ人しらず

[illegible]

[illegible]

二條の后の東の門やとて

[illegible]

[illegible]

ちはやぶる神代もきかず竜田川
　唐くれなゐに水くくるとは　　在原業平朝臣

神なびのみむろの山もあきにはあ
　ふるまがきの錦なりけり　　貫之

[illegible]

[illegible]

秋の夕

竜田姫たがぬ[illegible]神の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神なびの山をもみぢ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

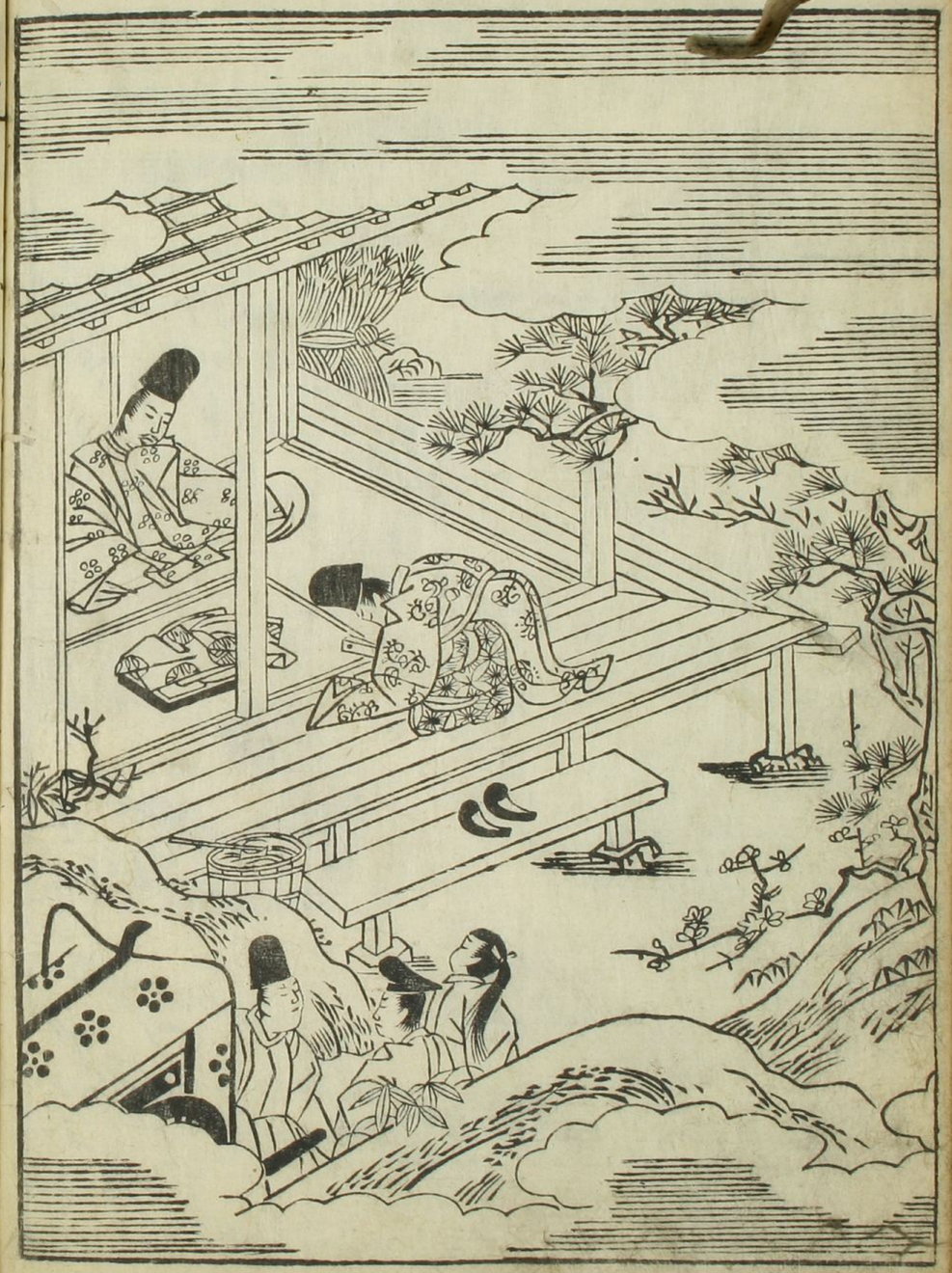
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

題恒

題之

秋

[illegible]恒

忠岑

右同

秋[illegible]

冬

題之

[illegible]

典侍藤原[illegible]

古今俗歌集巻第八

離別哥　四十一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わき紙をとりあへず書てつかはしける

うつしんかんのみなれ舎利舎りしふかきくゆゑ

心はなれずふくしまの

心風の侘ぬ侘ぬをこそ

ふやらの君と申人々をかいけんこそむつかしやいかなる

仁和寺にこもりけるの頃ならんしふ

おりかしてくるまひ家なよ　兼藝法師

あらしの山わたる波をみてよめる

かんなりのつかふ日おかしきをみてよめる

やまとなでしこ（ハンヘツアトヨムヘシ）

ゆゑ出侍るわれ侍はどうして

はらはむ

秋をしたへとあはれ

やまとなでしこ君とし申ものはいかにして

遍照

（フリニケリトイハンとう歌・時代ハ八ヘリ）

行はるの春の暮ぬれば

かれるの春をなつかしみて

別れを惜みをしむ侍る　躬恒

ひとりのみねさんと行とおもふ

読人しらず

わらはべ神の白むかの君のかくれやはてゆく

涙ぞ思ふ波ぞ

かくしてしかれば神々かつしわらんは日まくよ

ちはやぶる神のいさめもせずく君とをのん

恋歌の心を思ひ

人の

清原のもろすけ

井の

はらはむ

清原のもろすけ

道しるべ

（タメシヲトヨムヘシ）

ことをつ

安倍仲麿

[illegible]

小野篁の朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

在原業平朝臣

[illegible]

[illegible]

きくこゝ[illegible]屋をかりつまくに[illegible]

山すいはぶ人男女[illegible]

[illegible]

京へか[illegible]道[illegible]屋の[illegible]

かんい

東へこゝ[illegible]京へ[illegible]

山くに[illegible]震[illegible]

[illegible]

きくこゝ[illegible]

わ川[illegible]

いくこゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第十

物名 四十七

藤原ときはる朝臣

[illegible]

朱雀院のなりたまふ時よみてたてまつれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文屋やすひで

（師ナドナリ）

（傳受あり）

（ヒヤトカラトヘサカリメルナリ）

（ニ）

（ニ）

（ニ

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]